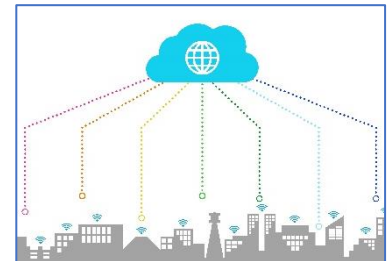




## デジタルネットワーク社会

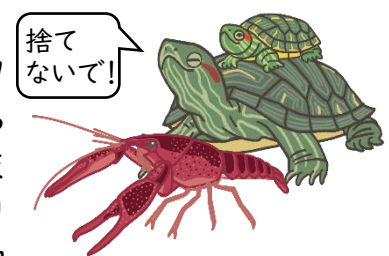
ネットワーク社会という言葉には新鮮な印象がありますが、いつの時代なりにもネットワーク社会はありました。例えば、江戸時代には、旅の道中であって、故郷に宛てて無事を報せる手紙を書いた場合には、それをその方面に向かう別の旅人に託したそうです。その後も手紙は旅人から旅人へ手渡され、最終的に宛先にきちんと届いたそうです。世界のネットワーク社会の歴史から、紀元前のエーゲ海沿岸の港町やシルクロード沿いの街を考えてみると、大昔から異なる地域の物や情報が行きかう場所が賑わっていたといえます。



現代は地理的条件に左右されずに、世界の人たちが知恵を絞って、ネットビジネスや SNS など、物流や交易中心地をつくろうとしのぎを削っているのです。海外とのデジタルデータのやり取りは、以前は通信衛星を経由して電波を介していましたが、今では全世界で地球30周分の長さがあるという海底ケーブルで行っています。デジタル社会というと、見えない電波によって繋がっているイメージを持つ人が多いかもしれませんが、しかし、水道や電気や道路などと同じで、ケーブルや電線、受信機などインフラ整備は欠かせません。高度化されたデジタルネットワーク社会こそ、人間の存在は必要なのです。そこには、江戸時代に運ばれた手紙のように、人情、信頼、相手を思いやる気持ちが不可欠になってくると思います。

## 生態系を守るため!

日本固有の生態系を守るため、政府は外来種のアメリカザリガニとアカミミガメ(ミドリガメ)の販売や輸入を6月から禁止します。この規制に違反すると、個人は3年以下の懲役または300万円以下の罰金、法人は1億円以下の罰金となります。アメリカザリガニの飼育数(推定)は、約65万世帯で約540万匹、アカミミガメは約110万世帯で約160万匹だそうです。ペットとしての飼育は引き続き認められるが、飼い主は逃げないように適切な対策を練る必要があります。北米産のこの2種は、繁殖力が強く、水生昆虫、小魚などを食べ尽くしてしまうからだそうです。



環境省の局長は、省の公式 YouTube チャンネル「今こそアカミミガメを語ろう!カメトーク!」で、アカミミガメになり切って呼びかけています。因みに、この動画の視聴回数は2万回を超えているそうです。

<https://www.youtube.com/watch?v=OT7CdGIpbUA>

※YouTube を視聴するには、別途データ通信料がかかりますのでご了承ください。